スイスで広がった私の世界

小俣陽茉莉

今回の国際交流派遣でスイスを訪れ、現地の人々と交流することで、文化や生活の違いを知り、多くのことを学んだ。

特に心に残っているのは、ホストシスターのエレンや友人のアーヴァとの会話だ。好きな音楽や食べ物、学校のことなど、たくさんのことを話した。国や言葉、文化が違っていても普段、日本の友達と話す会話の内容と同じであることに驚いた。国が違っても共感できることがたくさんあると感じた。

一方で、英語で会話する難しさも実感した。相手の英語を理解できても、自分の伝えたい言葉がすぐに出てこず、何度も聞き返されることがあった。知っている単語が少なく、言葉を考えている間に、次の話題に進んでしまうこともあった。この経験から、単語をもっとたくさん覚えることはもちろん、自分の考えや気持ちをすぐに伝えることができる力を身につけることが必要だと強く感じた。

また、現地の中学生に富士山についてプレゼンテーションをしたり、書道を披露したりした。書道に興味を持ってくれたレオノールという女の子は、プレゼントした書道セットを使って私の名前を漢字で書き、日本語の手紙と一緒にツェルマットを離れる前に渡してくれた。スイスの人にとって難しいはずの漢字やひらがなを一生懸命書いてくれたことが、とても嬉しかった。日本文化を伝えることで、相手に自分の国のことを知ってもらう楽しさを知った。

さらに、ユングフラウヨッホやマッターホルンの氷河は壮大で、その景色に圧倒された。あまりの大きさに人間がとても小さな存在に思えた。また、ツェルマットのおとぎ話のようにかわいらしい街並みも、日本とは全く違って見えた。

今回の経験を通して、世界には自分の知らない文化や考えがたくさんあることを知った。これからはもっと英語力を身につけて、自分の考えや気持ちを思うとおりに伝えられるようになりたい。そして、今回出会ったツェルマットの人たちと、お互いの国のことや自分のこともたくさん語り合えるようになりたい。